

川原寺裏山出土の塑像

仏教伝来の地、奈良県高市郡明日香村にある川原寺の裏山での発掘調査によつて出土した白鳳時代の塑像である。川原寺は飛鳥時代、大官大寺、飛鳥寺（法興寺）と並んで当時都の営まれていた飛鳥に建立された大寺（官寺）である。この寺は都が飛鳥から平城へ、さらに平安に遷都されると共に衰退し、平安時代の初期に焼失したと推定される。

裏山の遺跡は寺跡の西北近接の地にあって、昭和四十九年三月、発掘調査を実施したところ、千数百点に及ぶ三尊埴仏、塑像の尊像、緑釉埴、仏具と推定される金銅製金具など大量の出土品があった。

この尊像はこれらの遺物と共に出土したもので、その容像からみて天部像と考える。

造形はすばらしく、白鳳様式を示すすぐれたものであり、仏教美術の研究に貴重な資料を呈示したことになる。

（関西大学教授・本学講師 網干善教）

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。